

令和7年度「総合的な探究の時間」部会誌

学 究 心

第 22 号

事務局 広島県立御調高等学校

目 次

- 1 令和7年度広島県教育研究団体概要・・・・・・・・・・・・・・1
- 2 令和7年度広島県高等学校教育研究会研究活動実績報告書・・・・・・3
- 3 令和7年度研究大会・公開授業研究会・研修会に係る
実施要項及び資料・・・・・・・・・・・・6
- 4 令和7年度「総合的な探究の時間」部会員名簿・・・・・・・・・・・・29
- 5 「総合的な探究の時間」部会会則・・・・・・・・・・・・・・31

第3号議案

令和7年度広島県教育研究団体概要

団 体 名	広島県高等学校教育研究会 「総合的な探究の時間」部会		所 在 地	広島県尾道市御調町神 2 0 4－2	
目 的	「総合的な探究の時間」の推進・充実に関し、広島県教育委員会の指導のもとに、学習指導要領等の法令に則って自主的・創造的な教育研究活動を行い、本県高等学校、特別支援学校及び高等専門学校教育関係者の資質の向上と学校教育の振興を図る。				
役 員	役職名	氏 名	公職名	構 成 員 等	
	部 会 長	富永 六郎 (御調)	校 長	資 格 条 件	本県高等学校，特別支援学校及び 高等専門学校教職員であること。
	副 部 会 長	國藤 生美 (府中)	校 長		
	副 部 会 長	奥原 義尚 (賀茂)	校 長		
	理 事 (事務局長)	村田 能一 (御調)	教 諭	会 員 数	5 4 名 〔 県立 5 2 名，市立 1 名 私立 1 名，国立 0 名 〕
	理 事 (会 計)	宇都 禎大 (御調)	教 諭		
	理 事	市原 哲也 (広島国泰寺)	教 頭		
	理 事	徳永 和子 (豊田)	教 頭	会 員 の 分 布	1 全県 2 県の大部分 3 県の一部
	理 事	徳本 孝治 (御調)	教 頭		
	理 事	青山 大樹 (福山明王台)	教 頭		
	理 事	部屋 聡 (呉三津田)	教 頭	会 費	1 人 当 り 5 0 0 円
	理 事	荒尾 幸司 (三次定)	教 頭		
	監 事	宮本 博幸 (広島商業)	教 頭		
	監 事	有木 克明 (三原定)	教 頭		

団 体 番 号	2 6
教 育 研 究 団 体 名	「総合的な探究の時間」部会
代 表 者 職 ・ 氏 名	部会長 富永 六郎
勤 務 先 ・ T E L	広島県立御調高等学校・0 8 4 8 - 7 6 - 2 1 2 1
事 務 局 ・ 所 在 地 (T E L ・ 郵 便 番 号)	〒 7 2 2 - 0 3 4 1 広島県尾道市御調町神 2 0 4 - 2 広島県立御調高等学校内 電話番号 0 8 4 8 - 7 6 - 2 1 2 1
事 務 担 当 者 職 ・ 氏 名	理事（事務局長） 村田 能一
勤 務 先 ・ 職 名 ・ T E L	広島県立御調高等学校・教諭・0 8 4 8 - 7 6 - 2 1 2 1
預 金 口 座	<u>広 島 銀 行</u> <u>御 調 支 店</u> <u>普通預金 No. 3 0 0 2 4 0 0</u> (フリガナ) ヒロシマケンリツミツギコウトウガッコウ コウチョウ トミナガ ロクロウ 名 義 広島県立御調高等学校 校長 富永 六郎 住 所 広島県尾道市御調町神 2 0 4 - 2

令和7年度広島県高等学校教育研究会研究活動実践報告書

部 会 名 「総合的な探究の時間」部会

1 概要

部会名 所在地	広島県高等学校教育研究会 「総合的な探究の時間」部会 広島県尾道市御調町神 204-2	会長	冨永 六郎 (広島県立御調高等学校)	
		事務担当	村田 能一 (広島県立御調高等学校)	
		連絡先	0848-76-2121 (広島県立御調高等学校)	
目 的	「総合的な探究の時間」の推進・充実に関し、広島県教育委員会の指導のもとに、学習指導要領等の法令に則って自主的・創造的な教育研究活動を行い、本県高等学校、特別支援学校及び高等専門学校教育関係者の資質の向上と学校教育の振興を図る。			
役 職 名	氏 名(公職名)			
部 会 長	冨永 六郎 (校長)			
副部会長	國藤 生美 (校長)		奥原 義尚 (校長)	
理 事	市原 哲也 (教頭)		徳永 和子 (教頭)	
	徳本 孝治 (教頭)		青山 大樹 (教頭)	
	部屋 聡 (教頭)		荒尾 幸司 (教頭)	
	宇都 禎大 (教諭)			
監 事	宮本 博幸 (教頭)		有木 克明 (教頭)	
事務局長	村田 能一(教諭)			
会 員 数	54 名 <県立 52 名、市立 1 名 私立 1 名、国立 0 名>			
会 費	1 人当り 500 円			

2 研究の目標等（今年度の研究における達成目標・評価指標・達成基準）

達成目標	評価指標	R 6 実績値	R 7 目標値	R 7 実績値
所属校において、学校経営計画を踏まえた教育目標の実現に向けて、各校の取組（総合的な探究の時間等）の実施状況等を検証し、改善する組織を設け、定期的・計画的に会を開催している。	アンケート	86.4%	90%	89.5%
所属校において、「探究のプロセス」に基づいた学習活動を取り入れたシラバスを作成し、実施している。	アンケート	86.4%	90%	89.5%
部会員が、オンラインも含めた研究大会や公開研究授業、研修会等に参加している。	アンケート	76.2%	80%	78.9%
部会員が、所属校において、身に付けさせたい資質・能力を明確にした総合的な探究の時間の研究授業を行い、その資質・能力の習得状況を評価し、改善につなげている。	アンケート	77.8%	90%	78.9%

3 研究の内容及び方法（目標達成に向けた取組の具体的な内容や方法等）

県内各校の取組の改善に役立て、県全体の「総合的な探究の時間」の充実に資する。

1 推進体制の充実

各校において、学校経営計画を踏まえた教育目標の実現に向けた取組（教科・総合的な探究の時間・特別活動等横断的な学習）の実施状況等の定期的な検証・改善を組織的に行うことが必要とされる。また、教育内容においては、「探究のプロセス」に基づいた学習活動を取り入れたシラバスを作成し、実施していくことが求められる。各校において、それらが着実に実施・検証・改善が行われるため、アンケートによって状況を把握し、研究に役立てる。また、「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト」の研究等の成果を参考に研究を進めていく。

2 個々の教員の資質・能力の向上

上記の内容について研究を深めるに当たって、個々の教員の資質・能力の向上に向け、次のことを実施する。

- ・目標の達成に向けた適切な講師を招聘しての講演会
- ・「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト」の事業内容と連動させた研修会
- ・部会員が行き詰まりを感じている内容をテーマとした研修会
- ・各校の授業づくりに係る取組事例の発表
- ・各校の取組について情報共有するワークショップ等

4 研究成果の達成状況

（1）各学校の「総合的な探究の時間」の取組状況等に係る実態把握

平成 31 年 4 月 1 日以降に高等学校に入学した生徒から「総合的な探究の時間」の実施となった。各校において、学校経営計画を踏まえた教育目標の実現に向けた取組（総合的な探究の時間等）の実施状況等の定期的な検証・改善を、組織的に行うことが必要である。また、教育内容においては、「探究のプロセス」に基づいた学習活動を取り入れたシラバスを作成し、実施していくことが求められる。そのため、各校において、それらを着実に実施できているか状況を把握するためにアンケートを行った。

アンケート結果から、「学校経営計画を踏まえた教育目標の実現に向けて、各校の取組（総合的な探究の時間等）の実施状況等を検証し、改善する組織を設け、定期的・計画的に会を開催している。」部会員所属校は 89.5%（昨年度 86.4%）、「『探究のプロセス』に基づいた学習活動を取り入れたシラバスを作成し、実施している。」部会員所属校は 89.5%（昨年度 86.4%）とそれぞれの目標の 90%には届いていない。「探究的な学習」がすべての学習活動や「生きる力」の根底になることを認識して、シラバスを作成し、組織的な取組にしていく必要がある。

御調高等学校では、「自己の在り方生き方」を踏まえた探究テーマの設定をより充実させるため、令和 6 年度入学生からカリキュラムを変更した。他校の取組を参考にしながら教科横断的な学びや社会実装の伴った学びを充実させている。

（2）個々の教員の資質・能力の向上

「部会員が、オンラインも含めた研究大会や公開研究授業、研修会等に参加している。」は 78.9%（昨年度 76.2%）と昨年度より少し増加の結果となったが、目標の 80%に達していない。

今年度も、因島高等学校と御調高等学校の生徒同士による意見交換会という取組や御調高等学校と呉三津田高等学校の公開研究授業での研修会や御調中学校・御調高等学校「中高合同発表会」を開催するなど研修を行った。次年度以降も研究大会や研修会、公開研究授業の内容や実施方法を検討し、より一層充実させる必要がある。

5 次年度に向けた研究活動の課題（評価指標・達成基準、研究方法、研究成果等について、令和8年度に向けた課題を記入する）

（１）研修会や公開研究授業等の実施及び方法の工夫

次年度以降も研究を進めていくため、研修会や公開研究授業を計画的に進めて多くの部会員に参加を促す等の工夫が必要になる。各校の取組状況の情報共有や研修会の内容の改善等があるので、このような工夫が目標達成につながると考えられる。

各校の教育目標と密接に結びついている「総合的な探究の時間」について、今後どのような研究活動が行えるか各校で検討すると同時に「自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していく」ために個人探究のあり方や多くの学校で課題となっている個人テーマの設定方法の指導を考えていく必要がある。

（２）部会員の拡大や組織の活性化

- ① 公開研究会や研修会、実践発表の場を部会員に提供し、積極的な参加を呼びかける。
- ② 研究誌や教育委員会HPなど広報の充実に努める。
- ③ 役員や部会員の連携を深め、各校の状況把握に努め、部会員の拡大や組織の活性化につなげる。

御調高校×因島高校「総合的な探究の時間」



配布物

レジュメ（本冊子）

- （１）「総合的な探究の時間部会」公開授業研究会
～因島高校・御調高校交流会～

（２）アンケート

日時

令和7年8月20日（水）
14:00～16:00

「総合的な探究の時間」部会 公開授業研究会「因島高校×御調高校 交流会」

1 交流会の目的

各校の生徒が探究的な学習に取り組むにあたって考えている課題と計画、悩みやつまづきを発表する。学校を横断して生徒同士で交流することや現段階での探究の取組について講師からコメントをいただくことで、自らの視野を広げるとともに、探究的な学習の質を深める。

2 交流会のスケジュール

13:30～ アイスブレイク

14:00～14:05 開会の言葉（因島高校校長 中西 正典）

14:05～15:15 グループでの交流会

- ・1グループあたり4名の構成
- ・一人ずつ順番にいま取り組んでいる探究について説明し、アドバイスを求めたり、質問を受けたりして、自身の探究に生かす。
- ・参観者はグループを机間巡視して、生徒の発表の様子を聞いて回る。
※質疑応答の場面では参観の先生方も質問していただいてもかまいません。
是非よろしくお願いいたします。

15:15～15:25 休憩

15:25～15:40 全体発表（1グループあたり5分）

15:40～15:55 講師から生徒へのコメント

□広島大学大学院人間社会科学研究科 准教授 川口広美 様

□広島県教育委員会事務局 学びの変革推進部 高校教育指導課

高校教育指導担当 指導主事 染谷 裕樹 様

※全体を参観していただいて、生徒に向けてコメントをいただく。

15:55～16:00 閉会の言葉（御調高校校長 富永 六郎）

3 各校参加者の探究のテーマ

学校	氏名	探究のテーマ・プロジェクト名
因島	A	・地元のレモンを使ったデザートを作ろう！プロジェクト
因島	B	・誰でも触れる釣り餌を作るプロジェクト
因島	C	・ムキムキプロジェクト💪
因島	D	・わくわくカビなし大防壁
因島	E	・コミュニケーション×地域の人「つながる言葉、つながる人プロジェクト」
因島	F	・360°カメラで因島を観光しよう
因島	G	・流木からルアーを作ろうプロジェクト
御調	a	・カタログギフトで地元を全国に ・御調高校ソフトボール部を未来につなげるプロジェクト
御調	b	・カタログギフトで地元を全国に ・御調高校ソフトボール部を未来につなげるプロジェクト
御調	c	・カタログギフトで地元を全国に ・もしもこんな学校なら・・・プロジェクト
御調	d	・食べものを通して御調町の方々に喜んでもらうプロジェクト
御調	e	・ソフトボールをメジャーなスポーツにするプロジェクト
御調	f	・俺と土屋のお好み焼きプロジェクト

※御調高校の「カタログギフトプロジェクト」は2年生共通で取り組んでいる探究テーマです。

4 交流会の流れ

時間	主な活動	留意点
4 分 60 分	■各グループ内で、改めて自己紹介をする ■交流をする(一人 15 分×4 名) ※5 名のところは一人 12 分で行う。 ①自分のプロジェクトについて説明(5 分) ②付箋記入する(1 分)・・・ロイロノートへ記入 ③一人ずつコメントをやりとり(7 分) ・イイネ！ここがワクワクした！ ・だったらこうしてみたらもっとおもしろくなりそう！ ・聞いてみたいことへの答え など対話 ④質疑応答(2 分) ※①～④を繰り返す。	・ロイロノートの共有ノートにて、各グループで出た意見や交流の感想をまとめる ・事後のふりかえりをクラスルームで行う
3 分	■感想記入	
3 分	■感想共有・全体発表の準備 〈休憩〉	
15 分 15 分	■全体発表(1 グループ 5 分) ■川口先生からのコメント ・コメントを聞いて今後の探究に生かす。	
終了後	■写真撮影	

5 座席表

		G (因島)	c (御調)		
E (因島)	b (御調)	B (因島)	d (御調)	A (因島)	a (御調)
D (因島)	f (御調)	F (因島)		C (因島)	e (御調)

6 生徒のワークシート (※iPad を使って記入とグループ内共有を行う。)

名前

いいね
👍

こうしたらもっと面白くなりそう！

プロジェクト名

悩みや話してみたいこと

ふりかえり

グループや他の人のよかったところ

広島県立御調高等学校「まなびのとびら」(総合的な探究の時間)学習指導案

指導者 宇恵美咲 池田徳夫 宇都禎大 山根結実
日野隼一 長原俊輔 山下規之 長谷川真由美

1 日時・場所 令和7年10月22日(水) 13:20～14:30

2 学年・学級 第2学年 生徒38名

3 単元(教材)名

「地域とつながる未来の創造」ーカタログギフト制作を通じて地域と共に取組む未来の探究ー
～カタログギフト制作の完成報告会(まとめ・表現)～

4 単元について

(1)単元観

本校では、「御調高生は、人や地域、社会と地域と対話・協働し、自分を深掘りして尖った人材へと成長します」を教育目標として掲げている。その中核をなすという観点から、令和6年度入学生から教育課程を再編し、3年間を通じて総合的な探究の時間を展開することとした。学習指導要領では「自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していく学習」を実現することを目指している。また、同解説編においては、「社会や世界の中での自己の役割を自覚し、よりよい社会の形成に参画しようとする態度を育成すること」「他者との協働を通して多面的・多角的に考える資質・能力を養うこと」が重視されている。

一昨年度から、マイテーマの探究に取り組んできたが、テーマ設定や課題の設定を苦手とする生徒が多く、探究の見方・考え方を育む足場掛けをしておくことの必要性が本校の課題として上がっていた。そこで令和6年度入学生から3年間を通じて総合的な探究の時間を実施することとし、2学年では共通の探究課題のもと探究のプロセスや見方・考え方を鍛えていくこととした。

本年度は、尾道市合併20周年という地域の節目を契機に、「尾道・御調の魅力を届けるカタログギフトの制作と販売」をテーマに探究活動を展開してきた。生徒たちは、地域企業や行政との対話を重ねながら、掲載商品の選定やクラウドファンディングによる資金調達に挑戦するなど、実社会とつながる実践的な学びを積み重ねた。クラウドファンディングでは他校を上回る多くの支援者から協力を得て目標を達成し、また商品掲載では、短期間の中で企業の方々が協議や準備に協力してくださり、最終的に18点の掲載を実現することができた。

これらの活動は、学習指導要領にある「探究の過程(課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現)」を一連の実社会の場で体験的に学ぶものであり、本時では特に「まとめ・表現」「振り返り」の過程において、生徒が主体的に社会との関係を自覚し、自らの成長を内省する機会となっている。

本時は、これまでのカタログギフト制作の取組内容、完成したカタログギフトの販売についての方向性について発表する。完成発表会後の振り返りの会では、生徒同士だけでなく、地域内外の方々との交流をもとに、今後の取組の修正を行う。この交流を通じて、本校が育てたい生徒像(御調高 GP)として設定した「つながりを尊重する態度」「未来像を予測して計画を立てる力」を身に付けさせたい。

※御調高GPマスタールーブリック

指標 GP	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
つながりを尊重する態度	自分と周囲の人や社会、地域のつながりに関心を持っている。	自分の行動が、周囲の人や社会、地域にどのような影響を及ぼすのかを考えて行動できる。	自分と周囲の人や社会、地域とのつながりを自覚するとともに、自分の行動が及ぼす影響を理解している。	自分と周囲の人や社会、地域とのつながりを自覚し尊重するとともに、自分の行動が及ぼす影響を理解し、社会や地域に貢献することができる。
進んで参加する態度	集団の中で与えられた役割を理解している。	集団の中で与えられた役割を理解し、受け入れ、ものごと自ら進んで行動することができる。	集団や社会における役割を理解し、自分の発言や行動に責任を持って行動することができる。	集団や社会における役割を理解し、自分の発言や行動に責任をもち、やるべきことを自ら見つけて主体的に行動できる。
未来像を予測して計画を立てる力	自分の目標を明確に持ち、実現に向けて計画を立てることができる。	自分の将来のあるべき姿を考え、実現に向けて計画を立てることができる。	自らの経験や現状をふまえて自分の将来あるべき姿を考え、他者への影響も想像しながら、実現に向けて計画を立てることができる。	自らの経験や現状をふまえ、社会にどう関わっていくかを考え、自分や社会の将来あるべき姿の実現に向けて計画を立てることができる。

(2)生徒観

対象学年は、1年次の総合的な探究の時間「未来に生きる」の授業で職業インタビューを行ったり、地域で活躍する講師の方々を招き、講話を聞いたりしてきた。そのうえで、「御調地域の魅力や課題を生かして何ができるか」や「将来の自分の姿や興味の強い事柄から何をやってみたいか」、「そのためには誰とつながるべきか」等について考えてきた。カタログギフト制作の目的を考える際には地域の魅力や課題について、「尾道市は子育て支援が充実している」や「御調町では人口減少や高齢化がやはり課題である」などの意見がでた。生徒はカタログギフト制作を通じてこれらの課題の解決の一端を担えるのではないかと仮説を立てて取り組んでいる。

本年度は御調高 GP に基づいた振り返りを行っている。御調高校入学時の姿をマスタールーブリックのレベル1とし、卒業時の姿をレベル4と設定し、学期ごとに総合的な探究の時間や特別活動を振り返って自身の到達度を自己評価させた(下図参照)。

令和7年度 御調高GPの推移													
		つながりを尊重する態度				進んで参加する態度				未来像を予測して計画を立てる力			
		レベル4	レベル3	レベル2	レベル1	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
1 学年	1 学期	7%	34%	34%	24%	21%	24%	45%	10%	14%	14%	48%	24%
2 学年	1 学期	15%	44%	37%	4%	22%	44%	30%	4%	7%	37%	41%	15%
3 学年	1 学期	8%	71%	21%	0%	38%	58%	4%	0%	8%	79%	8%	4%

これによると、2学年の特長として、「つながりを尊重する態度」のレベル4が他学年と比較して高くなっていることが挙げられる。自由記述を見ると「カタログギフト」「まなび」というキーワードが多くあり、1学期に取組んだカタログギフト制作の「クラウドファンディングを通じて取組の説明、アピールをする」「自分たちの思いをプレゼンして商品掲載のお願いをする」「電話を掛けてPRする」等の活動をつうじて地域とのつながりを自覚できた生徒が多かったようである。一方で、探究活動の取組に濃淡があることは課題である。カタログギフトの探究は個人テーマの探究に比べてグループでの探究が主な活動となる。今後より一層の充実を図っていくためにはグループ内での役割や一人ひとりに焦点化した取組も必要になってくると考えられる。

(3)指導観

指導に当たっては次の3点の工夫を行う。まずは、全体の発表について、計画発表会時よりも多くの生徒に関わらせる。9月9日には尾道市役所にて尾道市長と広島県教育長に向けて完成の報告を行った。この準備を行う段階でこれまで中心的な役割を担った生徒が推薦する形で「商品掲載について話をしてほしい」「電話を掛けて苦労した点を表現してほしい」という思いを持って追加の発表者を増やした。このように主体性を育みながら取組を進めており、発表会の冒頭では市長や教育長に向けたものをブラッシュアップして発表する。

次にグループに分けて商品掲載の経緯や理由と販売の計画を発表していく。販売の計画の発表については、相手意識を育むため「どんな人に手に取ってほしいか」という項目を設け、販売する(カタログギフトを広める)ターゲットを明確にして考えるようにワークシートを工夫している。また各グループに地域の方、カタログギフト制作に関わっていただいた方、本校教職員に過不足なく入っていただき、指導助言をもらうことで「どこをターゲットにしているか?」「目的にそっているか?」などの視点を持たせていく。この工夫は、「未来像を予測して計画を立てる力」の育成に関わる。目的や目標を設定し、その解決のために工夫をし、取組を進めていくことは探究的な学びに不可欠な要素であり、生徒が他者を想像して自らの思いや意図をもって行動する姿を引き出すことにつながる。

最後に本時外ではあるが、発表を受けての意見交流の場を設ける。地域の方や企業関係者、教職員からの多様な視点の助言をもとに、生徒が自らの考えを振り返り、今後の販売計画や地域への発信方法を再構築していくことをねらいとする。発表内容に対して一方的に評価を受けるのではなく、対話的な意見交換を通して新たな気づきを得る構成とし、「自分の考えを深め、他者の考えを取り入れて再構成する力」の育成を図る。

このように、本時では、生徒がこれまでの探究活動を総括し、他者との対話を通して自らの考えを更

新するという探究のプロセスにおける「まとめ・表現」と位置づけている。特に「表現」と「振り返り」の段階を重視し、発表を単なる成果発表にとどめず、次の探究や実践へとつなげる契機とすることを意図する。生徒一人ひとりが自らの役割と成長を実感しながら、地域との関わりの中で学びを社会に開く授業となるよう指導を工夫したい。

5 単元の目標

探究の見方・考え方を働かせ、尾道・御調の魅力を発信するカタログギフト制作を通して、地域や企業と協働しながら課題を発見・解決していく力を育む。さらに企業や行政、地域住民と協働する中で、自らの思いや意図を分かりやすく他者に伝え、多様な価値観に触れながら課題を解決していく経験を積むことで、社会の一員としての役割を自覚し、自らの在り方生き方を主体的に考える力を育む。

6 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
地域や社会の人、もの、ことにかかわる探究の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域や社会の特徴やよさに気づいている。	・地域や企業との協働を通して得た情報を分析し、どのように地域の魅力を発信すれば効果的かを自ら考え、相手意識をもった形で計画・提案・発表することができる。 ・また、活動を振り返り、より良い方法を考え直そうとする姿勢が見られる。 【御調高 GP:未来像を予測して計画を立てる力】	・地域活性化に向けた課題を自分ごととして捉え、仲間や地域の方々と協働しながら課題解決に向かう意欲をもって活動している。 ・地域や企業の協働に感謝しながら、自らの成長や社会への関わりを振り返っている。 【御調高 GP:つながりを尊重する態度】

7 単元の計画

「地域とつながる未来を贈る」ーカタログギフト制作による地域と共に作る探究ー

次	時	学習内容・学習活動	評価				
			ア 知 技	イ 思 判 表	ウ 主 体 的	評価規準	評価方法
1	5	「課題の発見・設定」 ・地域の課題を踏まえて、カタログギフトを通じて何が解決できるか考える。 ・カタログギフト制作の計画を立てる。		○	○	イ・ウ	・ワークシート ・行動観察 ・計画発表会時の作成資料
2	14	「情報の収集」「整理・分析」 ・見直した計画に向けて情報収集を行い、商品リサーチを行う。 ・クラウドファンディングで自分たちの取組を発信することを通じて、自分たちの目的や思いをわかりやすく伝えるため、情報を精査する。	○		○	ア・イ	・行動観察 ・クラウドファンディングの説明資料 ・ワークシート
3	6	「まとめ・表現」 ・カタログギフト制作の見直しを深め、今後の販売計画を見通す。 ・販売計画について作成に関わった方、地域の方などから意見をもらい、課題の設定に役立てる。		◎	◎	イ・ウ	・ワークシート ・発表用スライド ・振り返り ・行動観察

◎記録のための評価 ○改善のための評価

8 本時の展開

(1) 本時の目標

地域とのつながりを踏まえて、カタログギフト制作の経緯を振り返り、今後の計画を見通すことができる。

(2) 本時の評価規準

・地域や企業との関わりから得た経験や情報を踏まえ、自分と地域・社会とのつながりを自覚していることを示し、自分たちの活動が地域にどのような影響を与えるかについて、根拠をもって説明している。

〔思考・判断・表現〕【未来像を予測して計画を立てる力：レベル3】

・これまでの取組について、自分たちと地域等のつながりを意識して振り返るとともに、他者の意見を踏まえて、周りの人や社会、地域の影響を考えようとしている。

〔主体的に学習に取り組む態度〕【つながりを尊重する態度：レベル3】

(3) 準備物

ワークシート、発表用スライド(Google スライド)、振り返りカード(ロイロノート)

(4)学習の展開

	学習内容・学習活動	指導上の留意事項(◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て)	評価規準〔観点〕 【御調高 GP】
導入 (5分)	○本時の目標・流れを知る。		
展開 ① (20分)	○全体司会によって、全体発表をする。 〔発表の内容〕 ・カタログギフト制作の目的 ・コンセプトの説明 ・クラウドファンディングの様子 ・商品掲載のお願いの流れ ・CF や商品掲載のお願いをして気づいたこと ○必要に応じて役割分担をして発表を進める ○聞いている人がイメージしやすいような工夫を取り入れて発表する。	◇事前に役割分担を確認させて発表がスムーズに行えるよう支援する。 ◆全体発表で前に出ない生徒もこの後のグループ発表をイメージしながら聞く。	・Canva で作成したスライド ○自分たちの目標や計画を踏まえて、今後の展望を見据えたスライドを作成している。 〔思判表〕【未】 ○これまでの取組について、自分たちと地域等のつながりを意識して振り返っている。 〔主学態〕【つ】
移動 (2分)	グループ発表用に椅子の移動を行う。		
展開 ② (18分)	○グループ発表の流れを確認する(1分) ○掲載した商品について説明する(1商品2分×3) ○これからの販売計画について説明する(1人2分×3) ○グループ内の参加者から意見をもらう(5分)	◇発表はメモを取りながら聞かせる。 ◆発表者だけでなく、司会、タイムキーパー、感想を発表する人に生徒を割り当て、責任感をもって協議に参加させる。	・自分の担当分の資料 ○自分たちの目標や計画を踏まえて、今後の展望を見据えたスライド等の資料やワークシートを作成している。 〔思判表〕【未】
展開 ③ (20分)	○参観者を代表して、指導助言をもらう。 ・ウエルシア H 池野様 ・広島大学 川口先生	・椅子だけ前を向き、話を聞く。 ◇メモを取りながら聞かせ、今後の販売計画に生かせるようにする。	
まとめ	○今日の発表会の振り返りを行う。 ・制作の活動を通して身についたこと。 ・販売にむけての見通し	◆事前に振り返りをもとに、伝えることを考えさせておく。	・振り返り(GoogleForms) ○他者の意見を踏まえて、計画を修正している。〔思判表〕【未】 ○他者の意見を踏まえて、周りの人や社会、地域への影響を考えようとしている。 〔主学態〕【つ】

高評価(A)の生徒の振り返り例

地域の方やカタログギフト制作でお世話になった方々と交流することによって、自分たちの取組が地域の活性化の役に立っていることが分かった。クラウドファンディングで寄付をしようと思った方のお話を聞いたことが自信につながった。今後はカタログギフトをより多くの方に知ってもらうことが大事だと思うが、今日のアドバイスをもとに、地域の方々の力を借りながら、取組を行えるように計画を修正したい。

○本時の評価ルーブリック

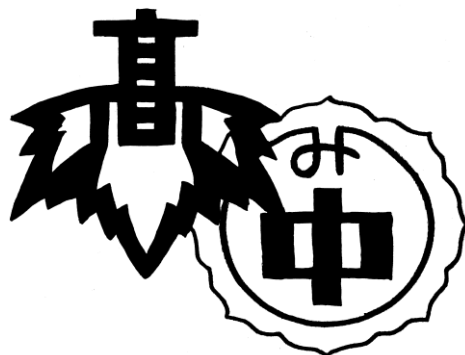
〔思考・判断・表現〕【御調高 GP:未来像を予測して計画を立てる力】

A(十分満足)	B(おおむね満足)	C(努力を要する)
地域や企業との関わりを通して得た学びを深く理解し、自分たちの活動が地域に与えた影響について、根拠をもって明確に説明している。聞き手や目的を意識した発表ができています。	地域や企業との関わりについて理解し、自分たちの活動の意義をおおむね説明できている。説明に一部根拠や具体性が欠けるものの、活動の目的や成果は伝わっている。	活動の内容や地域との関わりを列挙することができ、活動の意義や影響を説明しようとしている。

〔主体的に学習に取り組む態度〕【御調高 GP:つながりを尊重する態度】

A(十分満足)	B(おおむね満足)	C(努力を要する)
これまでの活動経験を自分ごととして捉え、今後の販売計画や将来の学びに結びつけて具体的に行動している。他者とのつながりや社会の状況を踏まえて自ら計画を修正・発展させようとしている。	活動を通して得た経験を自分の成長につなげようとする姿勢がある。今後の見通しや目標を持っているが、具体性が一部弱いものの、他者とのつながりを実感できている。	これまでの取組について、自分たちと地域等のつながりを意識して振り返っている。

**令和7年度
尾道市立御調中学校・広島県立御調高等学校
「総合的な学習(探究)の時間」
“まなびのとびら” 合同発表会**



日 時 令和8年2月2日(月)13:40～

会 場 尾道市立御調中学校・広島県立御調高等学校

中高合同発表会について

1 趣 旨

連携型中高一貫教育校である御調中学校と御調高等学校では、「総合的な学習（探究）の時間」において“まなびのとびら”の名称のもと、生徒自らがテーマを設定した課題探究的学習活動に取り組んでいるところであり、中高生の相互学習の場とするため、中高合同の生徒発表会を開催する。

2 主 催

尾道市立御調中学校・広島県立御調高等学校

3 日 時

令和8年2月2日（木）13：40～15：40

4 会 場

広島県立御調高等学校 旧体育館（尾道市御調町神 204-2）

5 日程及び内容

13：40～13：50	開会行事
13：55～14：30	中学生による発表 「総合的な学習の時間の取組について」
14：30～15：20	高校生による発表 「地域の魅力を発信するカタログギフト制作から得た学び・活動報告」
15：25～15：35	全体講評
15：35～15：40	閉会行事

6 講評・指導・助言者

広島大学大学院 人間社会科学研究科 准教授 川口 広美 様
広島県教育委員会事務局 高校教育指導課 指導主事 染谷 裕樹 様

御調中学校ステージ発表の概要

●御調中学生 発表Ⅰ

発表テーマ	TEAM 1 年 MWP プロジェクト
発表者	内海侑万、瀧本陽哉、國友瑠奈、高畦優、藤井志帆、梶田春翔、浜中あかね、・龍太郎、福田一心、石川翔太
発表の概要	
御調中学校 TEAM 1 年は自分の未来を想像し、創造していく力をつけるため、御調町で働く方々にインタビューをして地域について知りながら、「働くこと」について学ぶMWPプロジェクトを行いました。地域の働く方々から学んだことをお伝えしたいと思います。	

●御調中学生 発表Ⅱ

発表テーマ	ソフトボールの魅力発信！ソフトボールで御調を活性化
発表者	後藤さくら、迫はるか、島谷慧祇、森川暁成
発表の概要	
ソフトボールを通じて御調町を盛り上げ、ソフトボールの魅力をたくさんの方々に知っていただくことを目的に、地域のソフトボール活動に参加したり、ソフトボール教室を開いたりしました。実際に見て聞いて実践したことをお伝えします。	

高校生によるプレゼンテーションステージの概要

●御調高校生 オープニング

発表テーマ	カタログギフト完成発表会までの軌跡とこれから
発表者	前友春輝
発表の概要	
私たちはこれまで「尾道・御調の魅力を広め、関係人口の創出につなげたい」という思いのもと、カタログギフトを制作してきました。今日はその販売のフェーズについて報告します。その前段階として、販売までの取組を簡潔に紹介し、10月22日の発表会後に考えたことをお話しします。 そして、私たち2年生から、御調高校では3年生でもまなびのとびらを実施します。まなびのとびら「Ⅱ」です。カタログギフトプロジェクトを一年間かけて走った僕たちが「Ⅱ」ではどんなことをやるのか。その一端をお見せしたいと思います。	

●御調高校生 発表Ⅰ－①

発表テーマ	地域イベントへの参加
発表者	井上栞那、中谷琉唯、野間皆里、藤本優希、仁居舎蒼太
発表の概要	
昨年 10 月の完成報告会に多くの方からいただいた意見からカタログギフトに付加価値をつけることに焦点を当てて現在まで活動してきました。御調地域では秋以降多くの地域のイベントがあります。高校生ならではの視点で直接カタログギフトの魅力を様々な方法で伝えてきました。今日はその様子とイベントを通じて多様な人とつながることで経験したことについて発表します。	

●御調高校生 発表Ⅰ－②

発表テーマ	挑戦！ウェブクリエイターへの道！
発表者	内海楓万、高田篤希
発表の概要	
私たちが選んだ商品を、もっと簡単に知ってもらえる方法はないかと考え、カタログギフト専用のウェブサイトを作ることになりました。商品の詳細はもちろん、カタログギフト制作中の私たちも掲載しています。カタログギフトを通して、御調町や御調高校に興味を持っていただけよう日々頑張って制作に取り組んでいます。ぜひ聞いてください。	

●御調高校生 発表Ⅰ－③

発表テーマ	魅力発信！ポスター製作！
発表者	瀧本陽菜
発表の概要	
カタログギフトの魅力を効果的に伝えるために、4 枚のポスターを作成しました。色や配置などを工夫し、商品の価値や私たちの思いを視覚的に表現しよう心掛けました。このポスターを見て少しでも興味を持ち、尾道・御調を応援したいと手に取っていただける人が増えたら嬉しいです。	

●御調高校生 発表Ⅰ－④

発表テーマ	カタログギフトの輪を広げる活動 ― 営業活動と現在地 ―
発表者	安藤圭司、宮前弥千翔、佐伯泰知
発表の概要	
カタログギフトをきっかけに関係人口を広げていくために企業に購入してもらい、使っていただくのはどうかと考えました。クラウドファンディングでいただいたご縁、全国から尾道に人が集まりそうな場所、そのほか購入を検討してもらえそうな企業などへ営業活動をしに行きました。まだこれからなところはありますが、現在地を報告します！	

●御調高校生 発表Ⅱ－①

発表テーマ	まなびのとびらⅡにむけて ～御調×味昆 みつこんプロジェクト～
発表者	前友春輝
発表の概要	
カタログギフトのクラウドファンディングで支援してくださった味昆という会社があります。そのとき「できればうちの商品も掲載したいけどカタログギフトには向かない…」とおっしゃっていました。そこで、せっかくのご縁なので、カタログギフトに掲載できる商品を提案・共同開発できないかというプロジェクトです。完成したら、来年のカタログギフトに載せてくれん…？１年生☺	

●御調高校生 発表Ⅱ－②

発表テーマ	まなびのとびらⅡにむけて ～ケガ激減大作戦（仮）～
発表者	川口航輝
発表の概要	
カタログギフトを通して感じたのは、プロジェクトは一人では完成しない！ということです。電話やメールで協力をお願いした経験を生かして、広島県内の医療専門学校に協力をお願いし、体育の新しい準備運動、ソフトボール部の新しいウォーミングアップを共同考案したいと思います。自分の進路や将来の目標とかかわった探究をしたいと思っています。	

●御調高校生 発表Ⅱ－③

発表テーマ	まなびのとびらⅡにむけて Lunch Link Project～今日のお昼が、未来のご縁～
発表者	正木杏奈
発表の概要	
私には、悩みがあります。御調高校にはお昼ご飯の販売がありません！なんとかして御調高校にランチ販売を誘致したい！どんなアピールをすれば御調高校にランチ販売が実現するか。カタログギフトで学んだことを踏まえると可能ではないか？そんな思いをお伝えします。	

広島県高等学校教育研究会「総合的な探究の時間」部会会則

(名称)

第1条 本会は、広島県高等学校教育研究会「総合的な探究の時間」部会（以下、「総合探究部会」という。）と称する。

(目的)

第2条 総合探究部会は、「総合的な探究の時間」の推進・充実に関し、広島県教育委員会の指導のもとに、
学習指導要領等の法令に則って自主的・創造的な教育研究活動を行い、本県高等学校、特別支援学校及び高等専門学校教育関係者の資質向上と学校教育の振興を図ることを目的とする。

(事業)

第3条 総合探究部会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 研究会、講演会等の開催
- (2) 調査研究の実施
- (3) 研究成果についての刊行物出版
- (4) その他教育研究会の目的達成に必要な事業及び関係機関との連絡調整

第4条 総合探究部会は、総合探究部会の趣旨に賛同する本県高等学校、特別支援学校及び高等専門学校教育関係者で構成する。

(入退会)

第5条 会員になろうとする者は、役員会において別に定めるところにより総合探究部会長に申し出なければならない。尚、会員は、除名されるもしくは退会の申し出がない限り、継続するものとする。

(役員)

第6条 総合探究部会に次の役員を置く。

- (1) 部会長 1人
 - (2) 副部会長 2人
 - (3) 理事 若干名
 - (4) 監事 2人
- 2 部会長及び副部会長は、校長の職にある者でなければならない。
 - 3 理事は、事務局若干名、広島地区から1名、呉・賀茂地区から1名、尾三地区から1名、福山地区から1名、三次地区から1名とする。
 - 4 役員は役員会で選出する。

(職務)

第7条 役員の職務は次のとおりとする。

- (1) 部会長は、総合探究部会を代表し、会務を統括する。
- (2) 副部会長は、部会長を補佐し、部会長に事故あるとき又は部会長が欠けたとき、その職務を代理し又は代行する。
- (3) 理事は総合探究部会の会務を分担処理する。
- (4) 監事は、会計を監査する。

(任期)

第8条 役員の任期は1年とする。但し、補欠又は増員により選任された役員の任期は、前任者又は現任者の残任期間とする。

- 2 役員は、再任されることができる。
- 3 役員は、辞任又は任期満了においても、後任者が就任するまではその職務を行わなければならない。

(会議)

第9条 総合探究部会に、総会及び役員会をおく。

(役員会)

第 10 条 部会長は、総合探究部会の運営等について協議が必要な場合は、役員会を招集する。

2 役員会の議長は、部会長とする。

3 役員会は、第 6 条に定める役員で構成する。

4 役員会は、緊急を要する場合には重要事項を審議決定し、次の総会において承認を得るものとする。

(総会)

第 11 条 総会は毎年 1 回開催し、次の事項を審議決定する。

① 事業（研究・調査）計画

② 予算及び決算

③ その他必要な事項

④ 役員の承認

2 臨時総会は、必要に応じて開くものとする。

3 総会の定足数は、会員の 5 分の 1 以上とし、決議は出席者の過半数の同意を必要とする。

(会計)

第 12 条 総合探究部会の運営経費は、会費、その他の収入をもって充てる。

2 会費の額は、役員会において別に定める。

3 会計年度は、4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。

(事務局)

第 13 条 総合探究部会にかかる庶務を処理するため、事務局を置く。

2 事務局は部会長が所在する学校に置く。

(除名)

第 14 条 会員が、教育研究会及び総合探究部会の目的に反する行為を行った場合、役員会の 5 分の 3 以上の賛成により除名することができる。

(会則改正)

第 15 条 この会則の改正は、役員会の 5 分の 3 以上の賛成及び広島県高等学校教育研究会の承認を得なければならない。

(その他)

第 16 条 この会則に定めるもののほか、総合探究部会の運営に必要な事項は部会長が定める。

附 則

この会則は、平成 15 年 7 月 8 日から施行する。

附 則

この会則は、平成 19 年 8 月 17 日から施行する。

附 則

この会則は、平成 21 年 8 月 17 日から施行する。

附 則

この会則は、平成 24 年 5 月 16 日から施行する。

附 則

この会則は、平成 25 年 8 月 20 日から施行する。

附 則

この会則は、平成 29 年 8 月 30 日から施行する。

附 則

この会則は、令和元年 9 月 2 日から施行する。

附 則

この会則は、令和 6 年 8 月 6 日から施行する。